非母語話者の介護福祉士のための外国語訳をめぐる意味論的問題

―非専門用語の「専門分野における意味合い」―

ダニエル ロング*・磯野英治**

<目 次>

1. 研究の経緯と問題の所在
2. 介護分野の日本語と外国人の理解問題
3. 介護用語を外国語に訳す際の問題
4. 意味と語形から見た日常用語と専門用語の考察
5. 意味順序交代的日常用語の考察
6. 専門的意味の日常用語の考察
7. 非日常用語の考察
8. まとめと今後の課題

Key Words：意味論(semantics)、日本語教育(Japanese language education)、EPA＝経済連携協定(Economic Partnership Agreement)、インドネシア語(Indonesian)、介護福祉士(Certified Care Worker)、専門用語(specialized terminology)

<요지>

요양보호사를 목표로 하는 비모어화자를 위한 외국어대역을 둘러싼 의미론적 문제

-비전문용어의 「전문분야에서의 의미」-

다니엘 롱、이소노 히데하루

최근 EPA(Economic Partnership Agreement:경계제휴협정)과 관련하여 일본에

* 首都大学東京 人文科学研究科教授
** 大阪大学 国際教育交流センター 准教授(特任)

서는 요양보호사나 간호사를 목표로 하는 인도네시아어 모어화자를 위한 교재 및 연구가 급증하고 있다. 본 연구의 목적은 기존의 관련 용어 대역(일본어, 인도네시아어, 영어, 알기쉬운 일본어) 단어리스트의 첨삭과 수정을 위한 것이다. 여기에서 말하는 단어리스트란 도쿄국제대학의 가와무라요시코(川村よし子)교수가 이끄는 튜터프로젝트팀이 작성하여, 2011년 공개한 『간병관련 단어 808』이 그것이다. 2013년 가을, 필자(Long)와 동료연구자인 인도네시아교육대학의 디안니·리스다(Dianni Risda)교수가 함께 기존의 이 리스트를 살펴본바, 외국어대역의 수정이절실히 필요함을 실감했다. 그러나 단순한 번역상의 수정만이 아니라 심도있는 의미론적인 과제를 둘러싼 번역상의 문제가 있음을 절감하였다.

본고에서는 일본어 요양용어의 외국어대역을 선정하는 전제조건으로 단어형식만이 아닌, 그 의미와 관련한 체계적인 고찰이 필요함을 주장하였다. 구체적으로 말하자면 어떤 전문분야(예를 들면, 요양보호사 업계)에서 볼 수 있는 어휘 또는 언어에는 일상회화에서는 볼 수 없는 이른바 전문용어도 존재하는 한편, 단어형식 그 자체는 일상용어에서도 볼 수 있지만, 해당 분야에서만 통용되는 특유한 의미의 어휘 또는 언어도 있다는 지적이다. 본고에서는 이러한 표현을 「의미순서 교대적 일상어」「전문적 의미의 일상용어」로 이름 붙여 고찰하였다.

1. 研究の経緯と問題の所在

近年、EPA(経済連携協定)に関連して、日本で介護福祉士や看護師を目指すインドネシア語話者のための教材や、それに関する研究が増えている(西郡2010)。そして、首都大学東京とインドネシア教育大学との共同研究は、教員と大学院生の両レベルで行われている(磯野他2013a, 2013b)。本研究で論じるのは、単純な作業から始まって、意味論的な新しい概念の提唱へと発展させた理論的な側面である。その単純作業とは、外国人介護福祉士候補者のために作成された介護用語の対訳(日本語、インドネシア語、英語、やさしい日本語)の単語リストの添削と修正であり、それは東京国際大学の川村よし子氏が率いるチュウ太プロジェクトチームが作成し、2011年に公開した『かいご単語808』についての作業であった。チームの尽力によって実現したこの用語対

訳表は、外国人日本語学習者に貢献したに違いないが、2013年秋に筆者(ロング)と共同研究者であるインドネシア教育大学教員のディアンニ·リスダ氏がこのリストを参照したところ、外国語訳に修正を要する点が見つかった。翌年、リストのインドネシア語と英語の修正版に協力したいと川村氏に申し入れ、添削作業に着手したが、以下で見るように翻訳における単純ミスの問題もあれば、熟考を要する意味論的な課題が潜んでいる翻訳問題もあることに気づいた。本稿では、日本語の介護用語の外国語訳を選定する前提条件として、単語形式(語形)だけではなく、その意味合いに関する考察が必須であると主張する。具体的には、ある専門分野(例えば介護福祉士の業界)で見られる特有の言い方には、単語形式が日常会話では見られないいわゆる専門用語がある一方で、単語形式そのものは日常用語にも見られるが、当該分野において特有の意味合いで用いられる言い方もあるという指摘である。本稿ではこうした表現を「意味順序交代的日常語」や「専門的意味の日常用語」と名付けて考察する。

2. 介護分野の日本語と外国人の理解問題

介護福祉士の分野で使われる日本語は、様々な意味で外国人(日本語を母語としない非母語話者)にとって難しい。国家資格試験の過去問題を分析した遠藤(2011)は、難点を「専門用語」と「(非専門用語の)難しい表現」に分けている。前者は例えば、関節可動域制限や消炎鎮痛剤のような単語で、氏はこれらの使用は職業上で避けられないとし、一方で後者は日常的な日本語に置き換えるべきだと主張している。例えば、「生活を営む」を「生活する」に、「居住に要した費用」を「住むのに使った費用」のようにである。

介護福祉士を目指す外国人のために、介護分野でよく使われる単語のリストも作成されている。例えば、「チュウ太プロジェクトチーム2011」が公開している「かいご単語808」という日本語の用語リストには、インドネシア語や英語、やさしい日本語の訳がついている。しかし、本稿の研究母体となっているメンバーがその訳を添削したところ、間違った訳や不適切な訳が多く含まれていることが分かった。こうした誤訳は、介護分野と日本語学習者と

の問題の複雑さを象徴していると思われるので、ここでどのような言語問題が様々な誤訳の背景にあるかを検討する。

3. 介護用語を外国語に訳す際の問題

介護用語リストの誤訳の中に、何らかの単純ミスによると思われるものがある(表1)。例えば、「~士」はsamurai(サムライ)と英訳されている。この問題は分析するまでもないが、もう一つの訳personは一般的過ぎる。一方、インドネシア語はpriaと訳されているが、これも単なる「人」という意味であり、やはり情報が一般的過ぎて訳としては役に立たない。実際に介護福祉士試験の過去問題や対策に関する書籍の中で「~士」がどのように使われているかを確認すると、例えば「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」(廣池2013:97)、「介護福祉士義肢装具士」(同上2013:302)、「機能訓練士、各療法士」(同上2013:284)のように英語のspecialist(専門家)やtherapist(治療する人)で説明できるものが多いが、「レントゲンサムライを目指す受験生の皆様へ」などのようにsamuraiで説明できる使用例は一つもなかった。「~師」の英訳として使われるmasterも普段は「奴隷」の反対語として使われる単語であり、この分野において不適切である。

表1：単純ミスによる誤訳

リストの日本語	リストの英訳	リスト英訳の英語のニュアンス	介護分野の使用例(廣池2013の頁番号)	介護分野における主な使用を考えた代案
機関	engine, machine	(蒸気)機関車、機械	世界保健機関(332頁)	entity, agency
交流	alternating current	交流電流, ac(アダプター)	相補交流、交流分析(177頁)	interaction
~士	person, samurai	サムライ	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士(97頁)、介護福祉士義肢装具士(302頁)、機能訓練士、	specialist, therapist

			各療法士(284頁)	
~師	master	主人	医師(97頁)、看護師、保健師(302頁)	specialist

表1にあるその他の外国語訳も、意味を深く考えなくても誤訳だと分かる単純ミス的な誤訳である。介護の世界で「交流」とは「相補交流」や「交流分析」のように、人間とのコミュニケーションというコンテクストで使われるが、リストでは「交流電流」を意味する*alternating current*と訳されている。「機関」も同様に、「世界保健機関」などの例に出てくるが、リストでは「蒸気機関車」や「機関室」のように*engine, machine*と訳されている。これらの例は(次の節で紹介する意味論的に厄介な単語と違って)常識レベルのチェックによって防ぐことができる問題である。

本研究プロジェクトの共同研究者であるインドネシア教育大学教員のディアンニ·リスダ氏が訳を添削したところ、「機関」のインドネシア語訳にもこうした機械関係の意味に使用する*mesin*が含まれていることが分かった。リストには英語とインドネシア語で同じような誤訳の例が多く見られるので、インドネシア語訳は英語を介して行なわれたのではないかと推察する。そうした間接的な翻訳は誤訳の元となるため避けるべきであろう。例えば、このリストでは「異常」のインドネシア語訳が*tidak biasa*となっている。これは「普通ではない」というニュアンスであり、英訳は*unusual, uncommon*となっている。しかしながら一般公開されている過去問題(社会福祉振興·試験センター2014)を見ると使用例は「染色体異常」や「先天性代謝異常」などであるから、むしろ介護分野における典型的な使い方を考えると、*abnormal*、*tidak normal*がふさわしいと言える。

インドネシア語に見られる誤訳のいつかの例を表2に挙げた。例えば、愛が*cinta*と訳されているが、これは「愛」の訳として間違っているとは言えず、確かにインドネシアポップスの歌詞などによくみられる単語である。しかし、これはむしろ「恋、恋愛」という意味合いであり、国家試験の過去問題には「愛」が見当たらず、当該分野においてどのように使われるかは思い付かないが、福祉関係の団体名(朗愛会、愛広会、愛泉会、愛和会、愛礼会)にはよく出てくる。2008年に『「愛」なき国　介護の人材が逃げていく』というルポルタージュの本が出版されたが、おそらくそのタイトルにある「敬愛」と

いう意味がここで求められているのであろう。そうであるとすれば、英語の*care*やそれに近いインドネシア語の*kasih*や*sayang*が訳として適切ではなかろうか。なぜ「傾聴」が「無駄」を意味するsia-siaに、そして「癌」が「スケープゴート」を意味する*kambing hitan*にそれぞれが翻訳されたか分からないが、こうしたミスはチェックで簡単に直せるのである。むしろ厄介な問題は「関節」や「くだ」、「相手」などの誤訳に現れている。「相手」の訳となった*pasagan*、*lawan*は間違っているというわけではないが、介護分野における使用を考えると相応しくないと言える。

表2：介護用語のインドネシア語訳問題

リストの日本語	リストのインドネシア語訳	リスト訳語のインドネシア語の意味·ニュアンス	介護分野における主な使用を考えた訳案
愛	cinta/ mencintai	恋、恋愛	kasih, saying
相手	pasagan/ lawan	相棒、競争者	pasien
異常	tidak biasa	普通ではない	tidak normal
下肢	kaki bagian bawah	ひざより下の部分	kaki
癌	kambing hitam	スケープゴート、身代わり	kanker
関節	gabungan	機械の関節部分	sendi
くだ(管)	pipa, tube	水道などの太い管(かん)	saluran
傾聴	sia-sia	無駄	mendengarkan dengan, seksama

以上で単純ミスとも言える外国語訳の問題をみたが、より複雑な誤訳問題も現れている。それは、単語の英訳は不適切だが、全くの誤訳というよりも、日本語の単語に見られる複数の意味合いのうち、介護分野においてどれが最も適しているかという選択問題である。

リストでは「相手」の英訳が*partner*　、*opponent*となっており、やはり不自然である。これは「相棒、仲間、敵」の意味で、「同業者、他の介護福祉士」になってしまう。しかし、介護資格に関する書籍で用例を探したが、やはり「相手」は「介護を受ける人」の意味で使われている(廣池2013:34,35,38,39,41,42,45,46)。そこで日本でよく使われている『日本語大辞典』で「相手」を引いてみた(梅棹他1989)。すると介護分野で使われていそう

な意味合いの順位が低いことが分かった。辞書の切り抜き(図1)を見れば、「相手」のトップ4の意味合いは(順番に)(1)つれ、(2)なかま、(3)敵、(4)競争者、(5)介護の相手である。辞典はよく使用される順で定義を書くのが一般的なので、「相手」の英訳が間違っていたというよりも、日常用語で使われる意味合いと介護分野で使われている意味合いの順位が違うということであろう。

以下の表3にある不適切な英語訳はこういうタイプのものであり、すなわち複数ある意味合いのうち、当該分野で求められているのは、順位の低い意味である。

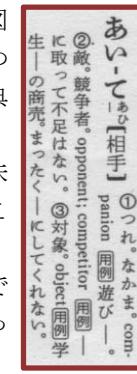
あい-て【相手】①つれ。なかま。companion 用例 遊び―。②敵。競争者。opponent; competitor 用例 ―に取って不足はない。③対象。object 用例 学生―の商売。まったく―にしてくれない。

図 1「 相手」

表3：複数の意味合いを持つ単語の英訳問題

リストの日本語	リストの英訳	リスト英訳の英語のニュアンス	介護分野の使用例(廣池2013の頁番号)	介護分野における主な使用を考えた代案
相手	partner, opponent	相棒、協力者、	利用者との関わり…相手とまっすぐに向かい合う、相手に身体を傾ける(42頁)	patient, person being cared for
器具、~器、~具	utensil, appliance	フォーク、スプーンの類、家電製品	電子機器、情報機器(43頁)、福祉用具(209頁)、補聴器(215頁)	apparatus, implement
更生	new birth, regenesis	生まれ変わる、生き返る	更生介護保険センター、全国知的障害者通所更生施設(340頁)	rehabilitation
困難	suffering	苦しみ	自宅での生活が困難な者(95頁)	difficulty
視覚	visual angle	見た角度	視覚障碍者介護、視覚障害者移動介護従業者(173頁)、 視覚障害の方は情報が入りにくいので、聴覚や触覚を活用したコミュニケーション(214頁)	sight, vision
自覚	self-know	悟り(仏教など	介護職者の自覚的健康、	perception

	ledge	の翻訳に使われる)	自覚症状(295頁)、介護職員としての自覚(114頁)	
在宅	to be at home	「在宅」は「留守」の反対ではなく、「入所中」の反対。	退所後の在宅生活、在宅では外出する機会が少なく(216頁)	in home (care)

4. 意味と語形から見た日常用語と専門用語の考察

上述のように本プロジェクトの当初の目的は、介護用語の外国語を添削し修正することだったが、その作業を進めているうちに、問題の奥が深いことが分かった。多義語の場合は、外国語の最適な訳語を選定する前に、当該分野においてどの意味が最も典型的か、そして一つの意味しか覚える余裕のない学習者にとって最も役立つ意味合いはどれかということをまず決めなければならない。しかも、問題は多義語だけではないことが分かった。

そこで、根本的な定義や概念に戻って、これらを考え直すことにした。日常用語とは何か、非日常的な言い方とは何か、単語の意味と単語の形式(語形)がどう絡み合っているか、などの問題である。専門用語とは何か、専門分野における意味合いとは何かということを考察する過程で、表4のような分類にたどり着いた。

表4：意味と形式における日常用語と専門用語の分類

		意味 日常用語的	
		＋	－
語形 日常用語的	＋	1.意味順序交代的日常用語	2.専門的意味の日常用語
	－	3.非日常用語	4.準専門用語 5.専門用語

このように二つの要因をクロスさせることによって検討した分類を以下のように説明することができる。

1「意味順序交代的日常用語」。マイナーな意味合いのメジャー化であり、問題は語形ではなく意味合い。そしてその意味がけっして独特ではなく、普通の辞書にも載っているが、順序が低い。例：「相手」は一般的には「仲間や競争者」だが、介護分野では「対象(介護を受ける者)」の意
2「専門的意味の日常用語」。非日常的意味合いで使われる日常用語。日常的な言い方だが、この分野における意味が違う。
例：「強度」を「運動強度」のように程度の意味で使用
3「非日常用語」。専門用語ではいが、非日常的言い方。問題は意味合いではなく語形。意味は割合簡単に日常用語に置きかえられる。
例：寝衣→寝間着
4「準専門用語」。介護用語のように概念が専門的ではないが、日常的にあえて区別しない概念。例：半座位、端座位。褥瘡(じょくそう)好発部位＝「床ずれしやすい体の場所」のように簡単に日常的な言い方に置き換えることが可能
5「専門用語」。完全に介護･医療分野だけでしか通じない語。簡単に日常用語に置き換えることが難しいので、語形が専門的なだけではなく意味も専門的な用語。
例：「半側空間無視」や「腸管出血性大腸菌」

実際の作業では、既述の介護単語外国語訳リストを、日本語、英語、インドネシア語のそれぞれの母語話者が共同で同時に添削し問題点を見つけ、話し合った上で修正案を作成した。その中から本研究では日本語の問題を取り上げるが、とりわけ問題となる表4の1番、2番、3番を以下に取り上げる。また介護用語の調査には、日本語(のみ)で書かれた介護福祉士関係の書籍、および介護福祉士試験の過去問題から特徴的な言い方を拾い分類し、分析と検討を行った。

5. 意味順序交代的日常用語の考察

まず表5で「着用」を取り上げているが、介護分野では「衣服を選択し着用する」のように使われている。確かにこの使い方も無いわけではなく、国語辞典類を見るとこの意味しか載っていない(『国語大辞典』1988)。しかし、この単語の一般的な意味合いが変化してきているであろうか。日本語ネイティブの感覚としては「着用」の一般的な使用法は「シートベルト」や「ヘル

メット」であろう。そして、インターネットで着用を検索すると(辞典類を除いて)ほとんどの使用例は衣服ではなく、こうした類の物である。

「入所」においても、日常語ではマイナーな意味となっているものは、介護分野においてむしろメジャーで一般的に使われる意味である。同様に小学館の『国語大辞典』で「入所」を見れば、「事務所、研究所、療養所など、所と名のつく所にはいること」と定義付けられており、やはり療養所が3番目となっている。「障害」に関しても同じ傾向がみられる。『国語大辞典』には(1)さまたげ、(2)身体の機能の故障という順番になっている。

表5：意味順序交代的日常用語

単語	介護分野での使用	一般の説明例
障害	障害を感じさせないもの	元々は「障害(障壁)を乗り越える」という意味で使われていたが、ここで言う「障害を感じさせない」とはむしろ「自分が障害者であることを感じさせない」。
着用	衣服を選択し着用することは	一般には「シードベルトを着用」のように使用するが、当該分野では衣服に使う。
入所	入所中の利用者について	通常は「~所」とつく施設に入る、「就職する」の意だが、一般的に刑務所を連想することも多い。ここでは福祉施設に入り、生活をすること。反対語は退所。

以上で見たように、表5にある「意味順序交代的日常用語」は次の特徴をもっている。これらの語形は日常語的であり、意味も日常的であるが、複数ある意味合いのうち、当該分野で最も一般的に見られるのは、日常会話ではむしろマイナーな意味である。つまりこの類の単語は「マイナーな意味のメジャー化」が特徴と言える。

6. 専門的意味の日常用語の考察

表6で取りあげているのは「専門的意味の日常用語」の使用例と説明であ

り、表4の2番に当たる。そして本稿で提唱している新しい5分類のうち、最も使用例が多く見つかったものである。それを理由に、本稿の副題にこの類を入れることにした。

詳細は以下の表に書かれているが、ここでいくつかの例を取り上げたい。まず廣池(2013)で最も頻繁に出てくるのはおそらく「利用者」という単語である。そして日常会話で「利用者」と言えば、まず思い浮かぶのは「タブレット端末利用者」や「会員制度の利用者」など、機器やサービスを利用している例であろう。しかし介護の分野では、介護を受ける人を「利用者」と呼んでいる。一般的に想像する単語は「患者」であると考えられる。

「移動」や「運動」の使い方も一般の用法とは異なる。前者は場所を変えることだけではなく、同じ場所にいながら体の位置を変える時にも使われる。後者の特徴は、食べ物を飲み込むことをも「運動」と表現するところにある。

表6：専門的意味の日常用語

用語	使用例	介護分野における意味
移動	人は体を移動させることなく生活できません	通常は「物体が右から左へ」「上から下へ」など。ここでは「寝返る」「起き上がる」「立ちあがる」「歩く」「座る」ことを指す。
おいしい(おいしく食べる)	利用者が楽しくおいしく食べられるよう配慮する	通常は「おいしい/まずい」のように食べものの味についていうが、ここでは「快適に」の意。
運動	食べ物を食べ、食道へ送り込むという複雑な運動	通常「運動」は身体を動かし健康を保つこと、或いはスポーツのこと。
起き上がり	起き上がり＝ベッドの使用状況	「自分で起き上がる·立つ」のが本来の意味で、ここでは「誰かの手を借りながらベッドから身体を起こす」こと。
外界	外界が暑いときは…	通常「外界」は「自分の関わっている社会や情報などと違う世界」だが、ここでは外のこと。
起居	起居動作機能(寝返り、起き上がり、座位保持	一般には「起居を共にする」のように日常生活を送ることだが、ここでは「寝返り」

	、立位保持、歩行等)起居様式(寝たきりではないこと)	「起き上がり」「立ち上がり」「座る」など、動作や状態に関わる意味で使用されている。
起床	ベッドは自分で起床できる場合には低めに、寝たきりの場合は‥	通常は「就寝」の反対語として「朝起きる」という意味だが、介護分野では「寝たきり」の反対語として使用される。
強度	安全な運動強度について医師に確認する	「強さ」の意味が一般的だが、ここでは「程度」の意味で使用されている。
声かけ	視覚障害者が活動しやすいように声かけすることが基本です	用事がある時に「声をかける」、或いは「励ます」ことを指すが、ここでは、目の見えない人に声をかけること。
~時	利用者の正面を6時、向かい側を12時、右を3時、左を9時と決めて	一般的には本来の「時間」を表すが、ここでは時計の文字盤に見たてた位置関係を指す。
自立	排泄介助では、出来る限り利用者の自立を助けるとともに…	通常は家族や金銭的な自立を言うが、ここでは日常生活ができること。
食事形態	個人に合った食材·調理法、食事形態を提供する	「食事形態」は通常立食か、和·洋式かなどのスタイルの問題であるが、ここでは「食べやすい食器」や「環境づくりの配慮」に焦点がある。
体位	利用者本人が心地よいと感じる体位にした	体位は通常、性行為で表現されるのが一般的。ここでは「姿勢」の意。
寝たきり	寝たきりの場合は…	通常は「寝たまま起きてこない」の意味。ここでは介護福祉士に浴槽に入れてもらうなどの話題などが出てくるので、文字通り「ずっと寝たままの人」というよりも、「自分で動けない人」の意。
話し掛け	対人関係を重視した話し掛けを行なう	通常は会話を開始することだが、ここでは個人が孤立しないように参加を促すこと。
文化度	幼稚にならないようレクレーションの文化度を高める	「文化」は一般的には国や地域、個人の教養について言うが、ここでは「レクレーション」との関連で言及されている。
ホーム	利用者にとってホームは生活の場である	通常「ホーム」は住居や自宅、本拠地を指す。「ホームヘルパー」も施設ではなく、

		自宅を訪問する人だが、ここでは利用者が生活する介護福祉施設の意。
身じたく	身じたくはその人らしさを表現する方法	通常は「出かける準備」を指すが、ここでは服を着る、或いは寒暖による服の選択を指す。
用具	用具を利用することはできません	一般的には「掃除の用具」など。ここでは利用者への介護等を助ける車いすや介護用ベッドのような「福祉用具」を指す。
利用者	利用者に最も適した方法で、安全に無理なく介護する	一般には物やサービス、施設を使用する者だが、ここでは、福祉施設の世話になっている人のことを指す。
レクリエーション	利用者の心身状態に応じたレクレーション援助を心がける	一般的には「仕事や勉学などの精神的·肉体的疲労を癒し、元気を回復するための休養や娯楽」。ここでは、「人が生きる喜びを見出すための活動全般」であり、例えば福祉における寝たきりの人への会話など、ちょっとした事を含んでいる。ここではクラフト、ゲームなどを指す。

7. 非日常用語の考察

最後に、上記で考察した「意味順序交代的日常用語」や「専門的意味の日常用語」と比較するために「非日常用語」を取り上げる。これは従来の「専門用語」という概念により近いものである。それは、語形(単語の形式)そのものは日常用語にないからである。端的に言えば、これまでに取りあげた類の単語は(当該分野で使われている意味が載っているかどうかを別として)一般の国語辞典や英和辞典(日本語·インドネシア語辞典など)に掲載されている。一方、表7に載っている単語は一般的な辞典には出てこない。つまり、見出し語そのものは載っていないのである。

例えば、「読話」はパソコンの漢字変換システムには登録されておらず、かつ一般的な辞書には出てこないが、介護や福祉の分野ではごく普通に知られている。廣池(2013:174)には「話す人の唇の動きや表情から読み取る読話·‥」とある。すなわち、一般人が言う「読唇術」のことを指す。

「寝衣」も非日常用語と言えそうである。今回参照している小学館の『国語大辞典』には確かに載っているが、コンテクストのない状態で、日常会話で使っても通じないであろうし、パソコンの漢字変換(マイクロソフトIMEバージョン10.1)でも出てこない。廣池(2013:203)は「寝衣」を使用しているが、寝間着(寝巻き)と言い換えが可能である。実はこれより数頁後に廣池は「寝巻きから普段着に着替えること…」と書いており、特別な意味で「寝衣」を使っているわけではなさそうである(2013:208) 。概して言えることは、これら「非日常用語」が難しいのは、意味ではなく、語形のみである。

表7：非日常用語

用語	使用例	用語の意味
移乗	ベッドから車いすへの移乗	「別の車や船に乗り移る」など、乗り物関係が一般的だが、ここでは物から物への移動を含む。
居室	居室に入ったり	一般的には使用せず、ここでは利用者が使用している(住んでいる)一室。
在宅生活	退所後の在宅生活を念頭に、日常生活の自立を図る	在宅は「外出せずに自分の家にいること」で通常その反対は「留守」。ここでは施設生活の反対語の意。また、一般用語として在宅生活という用語は考えにくい。
寝衣	介護が必要な人の寝衣は、介護者が介護しやすく着脱しやすいもの	寝間着、寝巻きのこと。
読話	「話す人の唇の動きや表情から読み取る読話」	一般に言う「読唇術」のこと。
寝かせきり	「寝かせきり」となっている場合がある	「自分で動けない者を放置する」の意。
寝込ませる	孤独に放置したり、必要以上に寝込ませない	「寝込む」は通常「熟睡する」意や「病気で寝込む」のように使われるが、ここでは、「寝てばかりいさせる」意で用いられている。
日常生活活動	日常生活活動の場面で、視覚障害者が活動しや	「活動」とは活発に動いたり、ある動きや働きをすることであるが、ここでは日々の一般的な生活場面に使用している。また日常生活活動という用

	すいように	語は一般的ではない。
文化情報	視覚障害者にとっては、文化情報のバリアの解除は困難です	「文化情報」は通常旅行などの際の国や地域の情報を指すが、一般的ではない。ここでは身近な周辺の日常生活情報の意。

表4で分類した4番「準専門用語」および5番「専門用語」は本稿で詳しく取りあげないことにした。その理由としてこれらは定義上、語形(単語の形式)そのものは日常用語として出現するとは考えにくく、一般の辞書に載っていない。それはつまり、介護福祉士を目指している外国人がこれらの単語に出くわした時に一般の辞典類を見て、意味を誤解する危険性が低い、あるいは(介護の専門家ではない)日本人の友人にその意味を尋ねて、違う説明を受けたりする危険性が低いからである。

4番の「準専門用語」と5番の「専門用語」を上記の「非日常用語」(3番)と区別しているのは、3番は簡単に日常用語に置き換えが可能であるが、4番と5番は表わしている意味そのものが複雑(専門的)であり、簡単に言い換えることが難しい点にある。そして、4番の特徴は、日常的にわざわざ区別しない概念を当該分野で区別している点にある。例えば、4節で触れた「半座位」と「端座位」はともに一般に「座る」という姿勢に含まれるが、前者はベッドに足を延ばして、背もたれを使って「座る」ことで、後者は「ベッドの横に腰をかけて、足を垂らす」姿勢を指す。本稿で論じている「専門用語」は半側空間無視、腸管出血性大腸菌などのように、専門的な知識なしでは、概念(意味)そのものを理解することが難しいものである。

8. まとめと今後の課題

以上、非母語話者の介護福祉士のための外国語訳をめぐる意味論的問題を探った。その結果、誤訳の背景には様々な言語学的要因があることが分かった。特に、介護のような専門分野における「専門用語」を考える際に、狭い意味での専門用語(すなわち語形(単語形式)そのものが非日常用語的なもので

あるかどうか)だけでなく、その意味合いも考えなければならないことを主張した。そしてこの中でも、介護分野における「非専門用語の専門分野における意味合い」の具体例を多く取り上げながら、こうした用語の存在を認識する重要性を強調した。こうした意味論的な考察を行った上でなければ、外国語訳を考えることは本質的にはできない。

本稿で指摘した専門分野における単語の独特な意味合いは、「レジスター」(言語使用域)という概念で扱うことが有効であると考えられる。そして介護以外の分野、あるいは個別単語のレベル以外でも、句や節レベルでの言い回しについて今後は考えていくべきであろう。例えば、日本語教師が使う「現場を持つ」という表現は、言語学や教育論の授業だけではなく、実際に外国人に日本語を教えるクラスを担当しているという意味で用いられる。さらにこのような内容形態素(語彙形態素)のみならず、機能形態素に近い単語にも特有の使用法が、ある特定分野において見られることが少なからずある。例えば、植物学者は動物だけではなく、植物にまで「いる」の使用範囲を広げ、「乾燥地帯だからテリハボクはいない」などの例があるということである。今後は本論で扱った観点を外国人のための介護福祉士分野に有効に活用していきたい。

<参考文献>

磯野英治·引田梨菜·豊國祥子·李恵·Andina Permatawaty·Astiya Hadiyani·Wistri Meisa·Sustia Fattiska·Rosi Rosiah(2013a)「首都東京におけるインドネシア語の言語景観の展開－公共表示·民間表示に注目した事例調査－」、『日本研究』Vo1.34、韓国中央大学校日本研究所、pp.343-356.

磯野英治·丁美貞·佐々木末華·ANISA Arianingsih,·EKA Mahtra Khoirunnisa,·REKHA Della Fitrati(2013b)「言語景観にみるインドネシアの日本語の現状と役割」、『日本語研究』第33号、首都大学東京·東京都立大学 日本語·日本語教育研究会、pp.113-122.

梅棹忠夫·金田一春彦·阪倉篤義·日野原重明 監修(1989)『日本語大辞典』、講談社.

NHKスペシャル取材班·佐々木とく子(2008)『「愛」なき国 介護の人材が逃げていく』、阪急コミュニケーションズ.

遠藤織枝(2011)「第23回介護福祉士国家試験の難しさについて」、『2011年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、日本語教育学会、pp.57-68.
市古貞次·金田一春彦·見坊豪紀他編 (1988) 『国語大辞典』(新装版CD-ROM)、小学館.
社会福祉振興·試験センター(2014)『介護福祉士国家試験過去の試験問題』(http://www.sssc.or.jp/kaigo/ past_exam/).
チュウ太プロジェクトチーム(2011)『かいご単語808』(http://chuta.jp/Archive/808_kaigo_tango_介護単語_ver1.pdf).
西郡仁朗(2010)「EPA看護師·介護福祉士候補者」、『月刊　日本語』2010年　11月号、アルク、pp.22-23.
廣池利邦(2013)『スラスラ覚える介護福祉士合格ゼミ』、新星出版社.
ロング　ダニエル(2012)「緊急時における外国人住民のコミュニケーション問題－東日本大震災と阪神大震災から学べること－」、『日本保健科学学会誌』Vol.14,No4、日本保険科学学会、pp.183-190.
ロング　ダニエル·磯野英治(2014)「非専門用語の『専門分野における意味合い』－介護福祉士を目指す外国人のためのインドネシア語·英語·やさしい日本語の訳－」、2014年日本語教育国際研究大会発表資料.

<謝辞>

本研究は平成25年度首都大学東京戦略的研究プロジェクト支援国際共同研究支援枠(「日本へのインドネシア移民の日本語教育を支える日尼対照言語学的研究」研究代表者：ダニエル·ロング、共同研究者：磯野英治、ディアンニ·リスダ、齋藤敬太)の助成金を受けて行われた。東京国際大学の川村よし子先生及びチュウ太プロジェクトチーム2011に御礼申し上げる。また本稿は、SYDNEY-ICJLE 2014(2014年日本語教育国際研究大会)にて発表したものを加筆修正した。そこで貴重なご指摘やアドバイスをくださった方々に感謝申し上げる。

저자명 : ダニエル ロング(Long, Daniel)
磯野英治(Isono, Hideharu)
이메일: dlong@tmu.ac.jp
isono-hideharu@ciee.osaka-u.ac.jp

접 수 일 : 2014. 08. 23.
심사개시 : 2014. 09. 12.
심사완료 : 2014. 10. 27.

<Abstract>

Semantic Problems in Foreign Language Translations for Non-Native Certified Care Workers

Field-specific meanings of non-technical word forms

Long, Daniel · Isono, Hideharu

In recent years, Japan has been attempting to increase the number of Indonesian Certified Care Workers through means such as the EPA (Economic Partnership Agreement). Linguists have been active in trying to decrease language hurdles, citing unnecessary difficulties in the national certification exam (Endo 2011) and developing educational materials for foreigners to learn specialized vocabulary (Chuta Project 2011) and the kanji used to write it. This paper began (with the cooperation of Indonesia University of Education's Dianni Risda) as an attempt to make corrections in the mistranslations of such words into English and Indonesia. However, it quickly became obvious that there was more to the problem than mistranslations. We reject the simple dichotomy between specialized (technical) and non-specialized (conversational) terminology and propose five groups of terms based on word form and meaning. (1) First are terms in which both the word form and its meaning are non-technical (conversational), like aite. Dictionaries give the English equivalents of this term as companion, company, opponent, competitor and object, roughly in order of commonest usage. The problem is that, in the healthcare field, the most common usage of this word (object of one's care) is the less common in general usage. This means that translating this word into English (or Indonesian) without consideration of the field-specific meaning of this non-technical word form would lead to the (mistaken) impression that it referred to a coworker than to a patient. (2) Another group of terms are those in which the word form itself is found in common usage but its semantics are different in a specific field, such as the term kyoudo which in everyday usage means "strength" (as in how many kilos of weight a shelf can support) but in this field is used for things like the strenuousness of

exercise. What have hitherto been thought of as technical terms, words in which the word form itself is not used in everyday speech, are here separated into (3) terms in which the meaning is an everyday one, such as shin'i, which could be easily explained as nemaki (pajamas) and (4) terms in which the meaning itself is complex and can not be explained by the substation of an everyday word such as hansoku kuukan mushi which is translated into English as "unilateral spatial neglect". This paper concentrates on the importance of group 2 terms.